キャラクター名: ティーダ・テルマン

プレイヤー名:

種族	フィー	種族特徴	妖精の加護、浮遊		
生まれ	妖精使い	性別	男（男性型）	年齢	16
冒険者Lv	13	経歴	愛読書を持ち歩いている（いた） 純潔である 師と呼べる人物がいる		
経験点	1000				

		能力値	A-F	成長	他修正	能力値	ボーナス
技	6	器用度	10	20		36	6
		敏捷度	14	14		34 + 2	6
体	8	筋力	2	7		17 + 1	3
		生命力	4	12		24	4
心	14	知力	4	6		24	4
		精神力	6	5		25	4

技能	Lv.	技能	Lv.
グラップラー	13		
フェアリーテイマー	3		
スカウト	10		
エンハンサー	6		
アルケミスト	3		

技能	技能レベル	基本命中力	基本回避力	基本追加ダメージ
ファイター	0			
グラップラー	13	19	19	16
フェンサー	0			
シューター	0			

鎧と盾		ランク	必要筋力	回避力	防護点
鎧	リュンクスベスト		8	2	3
盾					
その他補正(防具習熟/回避行動 etc)					
回避技能	グラップラー	合計値		21	3

武器	用法	必要筋力	命中修正	命中力	C値	追加ダメージ	威力	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
セスタス『怖い怖い女王様の鉄拳制裁』 グラップラー専用、パンチ強化、オーダーメイド+1、読みは『ティターニア・カノーネ』	1H	1	1	2d+ 20	10	17	2										
キック	1H#	0	-1	2d+ 18	12	17	5										
投げ グラップラー専用	2H	0		2d+ 19	12	17	0										

一般装備品	(消耗チェック)
冒険者セット	○□□○□□
アウェイクポーション	○□□○□□
救命草x2	○□□○□□
魔香草	○□□○□□
クラシックギター	○□□○□□
愛読本	○□□○□□

薄い本x10	○□□○□□
褌	○□□○□□
	○□□○□□
	○□□○□□
	○□□○□□

所持金 185530 G

預金・借金 G

制限移動	通常移動	全力移動
3 m	38 m	114 m

回避	防護点
2d+ 21	3

HP
78

魔物知識/弱点	先制力
2d+ 0/×	2d+ 16

生命抵抗	精神抵抗
2d+ 17	2d+ 17

MP
34

魔法技能	Lv.	魔力	魔法技能	Lv.	魔力
妖精魔法	3	7			

戦闘特技			
追加攻撃	220 p	魔力撃強化	3144 p
投げ攻撃	225 p	武器習熟/格闘	221 p
カウンター	2120 p	飛び蹴り	3146 p
バトルマスター	3143 p		p
トレジャーハント	2120 p		p
ファストアクション	2123 p		p
影走り	2120 p		p
魔力撃	227 p		p
防具習熟/非金属鎧	222 p		p
頑強	218 p		p
両手利き	223 p		p

言語	会話	読文
交易共通語	○	○
魔動機文明語	○	○
妖精語	○	

装備品	説明
頭	
耳	
顔	
首	
背中 マント	羽を隠すためのもの。脱ぐのであまり意味が無い
右手 疾風の腕輪	
腰	
足	
その他 俊足の指輪	

装備品	説明
左手 怪力の指輪	

練技/呪歌/騎芸/賦術	

名誉アイテム	点数

名誉点 所持 0 /合計 0

その他メモ

ノーヴィスヴィアの大工の親方、アベル・テルマンの養子。この世界に降りて間もない頃に森で木を切っていたアベルと出会う。名前を聞かれた際に「ナマエ？何それ英雄！？」と返し、呆れたアベルから"太陽"を意味するティーダという名前をもらう。以降、アベルの子供として扱われ、大工である彼の仕事を手伝うようになった。格闘術はアベルに基礎を叩き込まれたもの。アベルに対する呼称は「父さん」。息子として扱われているのは、「お前どっちだ？」「んと、んと…。多分男！おっぱいないもん！」という会話があったため。

ある日、アベルと共に温泉宿に泊まったティーダは、そこの温泉で子供たちに酷くからかわれた。「男だって言ってるくせにアレが無いじゃないか！」フィーであるティーダには明確な性別が存在せず、また生殖器が備わっていなかった。自分はフィーなのだから当たり前だ。と思っていたティーダにとってその言葉は衝撃的であった。無いと男として扱ってもらえない。温泉から帰った後でそう嘆いていると、アベルから拳骨をお見舞いされる。びっくりしているティーダにアベルは静かに問いかけてきた。「大事なのは、てめえがてめえをどう思い、どうありたいと願うかだろうが、バカ息子」「ティーダ、お前の心はどうありたい？」かつて聞かれたことと同じ質問に「男…」と返したティーダに「じゃあこれからもこの先も、てめえは男だ。自信を持て、ティーダ」とアベルは返してきた。その顔はとても頼もしく、以降ティーダはアベルを「カッコいい男の人」と認識し目標とするようになる。

自動失敗チェック

□□□□⑤
□□□□⑩
□□□□⑮
□□□□⑳
□□□□㉕
□□□□㉚
□□□□㉟